

34．夏秋花を利用した樹上越冬レモンの着果特性と果実品質

1．背景とねらい

広島県のカンキツ産地では、レモンの周年供給のため、6～9月の端境期は長期貯蔵やハウス栽培により出荷されている。しかし、長期貯蔵では腐敗によるロスが多いこと、ハウス栽培ではコストが高いことが問題である。レモンは他のカンキツ類と異なり、5月以外の7～9月にも開花する性質（四季咲き性）が強い。そこで、夏秋花を利用して低コストで端境期に出荷できる生産技術を開発するため、夏秋花由来の果実を樹上越冬した際の着果特性と果実品質を明らかにする。

2．技術の内容

- 1) 道谷系「ピラフランカ」（三原市木原）において、夏秋花由来の果実を樹上越冬したところ、6月22日の落果率は、8月開花の果実が30%で最も低く、5月開花と7月開花の果実では、63%と57%で同程度であった。10月開花の果実は、6月20日にはすべて落果した（図1）。また、果実の横径では、11月18日の調査で35mm以下の果実は、越冬後の6月22日には全て落果した（データ省略）。
- 2) 越冬果実の果実品質は、果皮は5月開花の果実が厚く、果汁割合はいずれの開花時期とも同程度であった。種子は8月開花の果実が少なかった（表1）。
- 3) 果実のBrix値および酸度は、5月開花で低く、7月と8月開花で同程度であった（表1）。
- 4) 6月22日に収穫した越冬果実の果実分析では、5月開花の果実は3Lの果実がほとんどであり、7月開花は2L、8月開花はLの果実が多かった（表2）。
- 5) 以上の結果から、7月および8月に開花・結実して樹上越冬し、6月下旬に収穫した果実は、5月開花の越冬果実に比べて、果皮が薄く、酸度が高く保たれており、階級は高単価のL～2Lが多いことから、今後の落果率低減等の技術開発による利用の可能性が示された。

3．今後の計画

夏季出荷に適した果実が生産できる開花時期を特定し、それに適した栽培法を開発する。

（果樹研究部）

4. 具体的データ

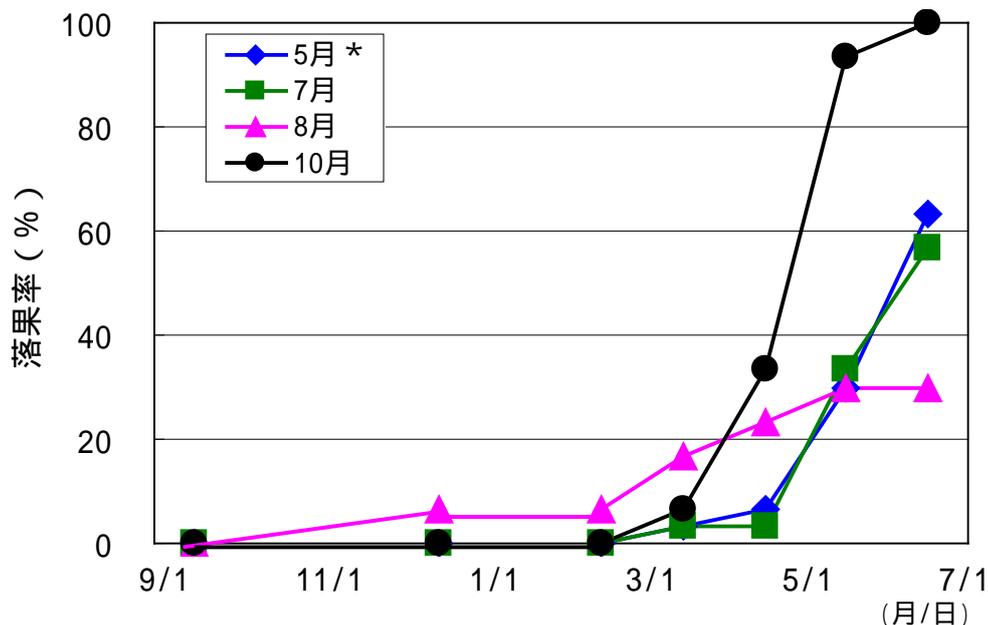


図1 道谷系「ピラフランカ」における開花時期が異なる果実の落果率推移
* 推定開花時期

表1 道谷系「ピラフランカ」越冬果実の分析結果²

推定 開花時期	果実重 (g)	横径 (mm)	縦径 (mm)	果形 指数 ^y	果皮の 粗滑 ^x	果皮厚 (mm)	種子数	果汁割合 (%)	Brix値 (° Brix)	酸度 (%)
5月	245.7a	75.2a	95.6a	79.1a	4.0a	8.5a	22.9 a	21.1a	7.5a	6.4a
7月	172.9b	67.2b	82.5b	81.5a	4.2a	6.4b	25.0 ab	21.6a	10.8b	7.6a
8月	136.5c	61.1c	76.4b	80.4a	4.0a	6.0b	15.4 c	22.3a	10.0b	7.2a

²分析果実は、推定開花期5月は、2009年5月に開花して結実した果実、推定開花期7月および8月は、2009年7月13日に全摘果した樹において、7月および8月に開花した果実を、2010.6.22に収穫して6.23に調査
Tukey分析により同一アルファベット間には、5%水準で有意差なし(n=9~21)

^y横径/縦径×100 ^x1滑-5粗

表2 道谷系「ピラフランカ」越冬果実の階級²

推定 開花時期	調査 果実数	各階級の果実数(%)				
		S	M	L	2L	3L
5月	11	0 (0)	0(0)	0 (0)	1 (9)	10(91)
7月	9	0 (0)	0(0)	0 (0)	6(67)	3(33)
8月	21	2(10)	1(5)	10(48)	8(38)	0 (0)

²調査樹は4年生